茨城県教育委員会教育長賞・鹿島アントラーズ賞・優秀賞

祖父の残した言葉

龍ケ崎市立城ノ内中学校　三年
岩瀬（いわせ）　史絵（ふみえ）

今は亡き祖父から言われた言葉で、いつも私の心の中にある一言があります。

私の祖父は私が幼稚園生の時に亡くなりました。当時私はまだ幼かったため、祖父の事はあまりはっきりとは覚えてはいません。つまり私の祖父の記憶の大部分は、正確に言うと大きくなってから母に聞いた話がほとんどなのです。

祖父の思い出の中で母が

「おじいちゃんは日頃温厚であまり怒らなかったけど、これを言うといつも怒られた言葉があるんだよ。」

と教えてくれたのが私の心の中に深く刻まれた一言「なぜ私が」なのでした。

祖父は常日頃、人から頼まれ事をされたら何で自分がやらなくちゃいけないんだとは考えず、まずは引き受ける事にしていたそうです。人が自分を頼ってくるという事は、自分がその人に必要とされている印であって、信頼出来ない人間に人は物を頼まないから、というのがその理由との事でした。

しかしそうは言っても、私もそこまで器の大きくない未熟な人間です。時には面倒くさいと思ってしまったり、渋々引き受けたものの後になってから貧乏クジを引いてしまったと後悔する事もよくあります。

ですがそんな時、自分の心の中にある「なぜ私が」を思い出すのです。

祖父はきっと「なぜ私が」の後に続く言葉は「やらなきゃいけないの」ではなく「人に頼りにされたのか」であって、

その事を考えた時、自分を信頼してくれた人に対して、むしろ感謝すべきだと考えていたのでしょう。

「情けは人の為ならず」という言葉があります。本来の意味は、人に情けをかけておくと、巡り巡って結局は自分のためになるという事です。

しかし数年前、文化庁が実施した調査によると、情けをかけて人を助けてやる事は決してその人の為にならないと意味を誤っている人の割合が半数近くにのぼったそうです。

私も以前は本来の意味を間違えて解釈していた内の一人でした。しかし祖父の話を聞いた後は、正しい言葉の意味をより強く感じる様になりました。

巡り巡って自分のためになるという事は、人に頼りにされるのは自分自身が成長する上でも、プラスになるという事です。私を頼ってくれた人は、私を信頼するに足る人間であると判断してくれたわけです。

そう思うと、自然に周りの人に対する感謝の気持ちも生まれます。自分がより成長するためにむしろこちらが助けられたのだと思うと、ちょっと面倒な頼まれ事や、家の中の手伝いも俄然やる気がでてくる気がします。

祖父の声を直接聞いたり話をしたりする事はもう叶いませんが、祖父の伝えたかったであろう思いは、祖父から母へ、母から私へと受け継がれました。「なぜ私が」の後に、何という言葉を続けるのかは人それぞれではありますが、私はこの言葉をこれからもしっかり心に刻んで成長したいです。

祖父は生前、小さな個人商店を営んでいましたが、いつも人が立ち寄っては茶飲み話をしていた事を母から聞きました。祖父の、頼まれ事に嫌な顔をしない人柄が、周りの人を引きつけたのではないかと想像します。

私もまだまだそこまでの人間にはなれていませんが、祖父からつながった「なぜ私が」の精神を大切に、周りの人から頼られ、信頼される、そんな人間になれたらと思います。

この言葉を残してくれた祖父に感謝したいと思います。